

「いってらっしゃい！」





**自閉症のともくんは
こだわりが強く、感覚過敏があります。
周りで大声を出されることも苦手。
とても不安な気持ちになってしまいます。
でもともくんは元気にあいさつができます。
ニコニコ笑顔で、
誰とでもすぐにお話をして
仲良しになります。**

**ともくんは中学から、大好きなJRの
列車で通学しています。
小さい時から列車が大好き。
特にスーパーはくがお気に入り。
通学は片道1時間と長い時間です。
しかも一人での列車通学は
初めての経験でとても不安でした。
でも大好きな列車で学校に通うため、
入学前に頑張って練習もしました。**





朝の列車には
たくさんの方が乗ってきます。
ともくんは知らない人ばかりで
不安がいっぱい。
でも大好きな列車に乗れるので
ワクワクしながら
通学していました。

一度、列車に乗って学校に行くのが
嫌になったことがあります。
列車の中で何度もお兄さんたちに
からかわれていたのです。
ともくんはずっと我慢していました。
お母さんはとても心配で
一緒に通学することも考えましたが、
同じ駅から列車に乗る人が見守りに
協力してくれたり、
お兄さんたちもともくんのことを
分かってくれたりしたので、
安心して通学ができるようになりました。





ともくんは怖いと思ったことが
フラッシュバックすることがあります。

「また怖いことが起こるかもしれない……。」

でも大好きな列車通学を続けるために
ともくんは頑張りました。

JRの時刻表はお守り代わり。
いつも学生服のポケットに入れています。
一人で列車通学ができることは
ともくんにとって大きな自信になっています。

ともくんは相撲も大好きです。
今では大阪場所に
お父さんと一緒に行くのが恒例行事。
列車の時間、食事、泊まる場所など
ともくんが調べてスケジュールを立てます。
男同士の楽しい旅行です。





たくさんのごことを吸収し、
大人になっていくともくん。

でもお母さんは
ずっと一緒にいることはできません。
いつかは自立する時が来ます。
お母さんは少しずつともくんが
一人でできることを増やしています。
ある日はご飯を炊いてもらい、
ある日は家庭科で習った料理を
作ってもらいました。

今では牛丼、チャーハン、みそ汁も作れます。
掃除や洗濯もできるようになりました。
「ともくんが炊いてくれたご飯はおいしいね。
おみそ汁もお母さんが作るよりおいしいよ」。
お母さんが褒めると、ともくんはうれしくて
「次はもっと頑張ろう」と張り切ります。

一人きりの通学は、
お母さんにとっても大きな決断でした。
ともくんがいたから出会えた人、
ともくんがいたからいろんな人の輪も広がりました。
もし、あの辛かった時に
一人で通学するのを止めていたら。
もしあの時、周りの人の見守りがなかったら。
もし、周囲や地域の人たちのサポートがなかったら。
きっと、今、笑顔で通学するともくんは
見られなかったはずです。

「いってらっしゃい！」。
お母さんは今日もたくさんの人に感謝しながら、
ともくんを送り出します。





「自閉症・発達障がい」について

障がいの困難さも目立つが、優れた能力が発揮されている場合もあり、周りから見てアンバランスな様子が理解されにくい障がいです。養育環境ではなく脳の機能障がいによるもので、どんな能力に障がいがあるか、またどの程度なのかは人によってさまざまです。

★こんな配慮がうれしい！

- ◇障がいのため困難なことを「なぜできないのか」と見るのではなく、どうすると良いかを具体的に示す
- ◇「知らないこと」「初めてのこと」など変化への対応が苦手なので、絵や写真を使ってあらかじめ本人が納得できるように見通しを示す

あしがき

「発達障がいは一見して分かる障がいではないので、さまざまな誤解を持たれてしまうことがあるんです」。発達障がいを持つ子どもさんのお母さんが一様に口にした言葉だ。出会ったどのお母さんも笑顔でこれまでを振り返り、時には冗談を言いながら話してくれた方もいた。でもその内容は悩み、苦しみ、辛かったこともある。

発達障がいと向き合い、前向きに生活を送っているからこそ笑顔でいられるんだと思う。以前に比べ、発達障がいという言葉は浸透しているが、まだ理解していない人も多い。良き理解者が増えることが何より支えになることを痛感した。(石)